

作成者: 若原きなり

作成日: 2025年5月10日

気がつけばあっという間にFinalの期間を迎え、最終レポートやテスト勉強に励みつつ、友人やフィンドレーでお世話になった方々と過ごす最後の時間が過ぎていき、気づけば最終学期が終了していました。これが最後の月例レポートだという実感もまだあまり湧きませんが、留学の締めくくりとなるよう、しっかりまとめたいと思います。

【International night】

フィンドレー大学の一大イベントである「インターナショナルナイト」が今年も開催されました。さまざまな国の学生たちが、それぞれの文化を紹介するパフォーマンスや料理を提供し、大学関係者だけでなく多くの地域の方々と交流を楽しみました。私は日本チームとしてアイドルダンス、韓国チームとしてK-popダンスのパフォーマンスに参加しました。どちらのチームも本番に向けて一生懸命練習に取り組み、多くの方から温かい言葉をいただくことができました。友人たちと過ごしたダンス練習の日々は、この春学期のハイライトとなりました。各国の友達の伝統衣装を目にし、さまざまな料理を味わえて、とても印象に残る一日となりました。



【military】

アメリカで生活していると、アメリカ軍について耳にする機会がとても多くあります。友人の中にも家族が軍に所属している人や、自身が学生をしながら軍に所属している人もいます。その中でも特に印象に残った話があります。今期の教育学の授業でTBI(外傷性脳損傷)のトピックを扱った時に、生徒の1人が自分はその障がいを持っているとシェアしてくれました。その子は軍隊に所属しており、数週間遅れてこの授業に参加していました。活動の中で爆弾の被害にあい、以前より発語に詰まることが増えたと言っていました。日本でそのような活動をしている子と同じ授業を受けることなどまずないので、印象的だったとともに、政治を含めいろんなことを考えさせられました。このような、日本では体験できなかったり考えもしなかったりしたことに出会えたことも留学の財産だと感じます。

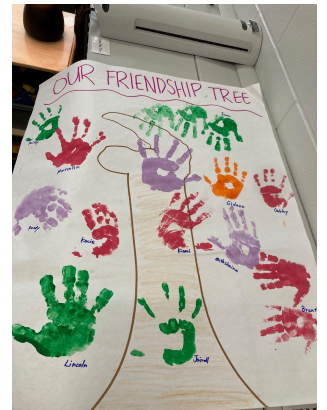
【病院見学】

この留学で行なってきた課外活動の主なものの一つに病院見学があります。川村先生に地元の総合病院(Blanchard Valley Health System)の特別プロジェクト担当副院長を紹介していただき、毎週様々な体験をさせていただきました。検査室や研究室の見学に加え、地域の家庭医療支

所で家庭医や小児科医の診療にも同行させていただき、非常に幅広い分野を見学しました。私は日本の医学部4年生の段階で休学し留学していたため、臨床見学の経験がなく、すべてが初めてで学ぶことばかりでした。医療英単語にも苦労し、毎日が緊張と集中の連続でしたが、どのスタッフの方もとても親切に指導してくださり、多くの学びを得ることができました。国民皆保険でない制度、救急車の費用、薬物依存の問題など、日本とは異なる臨床現場を目の当たりにできたのは非常に貴重な経験でした。日本に戻って復学し、総まとめの試験に合格すればいよいよ臨床見学が始まるので、アメリカでの経験を活かしてがんばりたいです。

【保育園ボランティア】

以前のレポートでも記述しましたが、もう一つの主な課外活動で週に2回保育園ボランティアを行っていました。写真は私も含めたみんなで作った Friendship Tressです。ついに子供たちとお別れの日になってしまいました。故郷とは遠く離れた、言語も違う場所で生活する上で、その子供たちは私の支えだったといっても過言ではありません。学校生活で疲れていても、保育園に行くといつも元気が出ていました。最終日に生徒たちと先生方から、みんなの名前が入ったプレゼントをいただき、本当に嬉しかったです。先生が、Kinariがどこに帰るかわかるかな？とみんなに聞いた時に、4~5歳の子たちにも関わらずかなり多くの子がJapan!と答えてくれて本当にびっくりしました。少しでも彼らにポジティブな影響を与えられていたら嬉しいです。



【フクビUSA訪問】

福井県奨学生が毎年行なっているフクビUSA訪問を私もさせていただきました。工場見学と一年のまとめのプレゼンテーションをさせていただきました。プレゼンテーションでは自分が今まで行なってきたことを振り返ることができ留学の終わりを実感しました。この10ヶ月で数えきれないほどプレゼンテーションをしてきたので、プレゼンテーション力の向上や、その後のスモールトーク力の向上も感じることができました。福井県を代表する企業をアメリカで訪問でき、このような機会を与えてもらって光栄です。



【総領事との食事会】

学期の最後に、埼玉県の奨学生と一緒にデトロイトの総領事と食事する機会をいただきました。総領事はデトロイトに赴任してから半年ほどですが今回含め3回もお会いでき、たくさんのお話しをすることができました。今まで行なってきた国連やサンフランシスコでのたくさんの活動などの貴重なお話しをととてもフレンドリーに話してくださいました。また、とても偶然なことにこの食事会の場所に、フィンドレーの市長が個人的にいらして、川村先生の



一言で市長も食事会に参加していただきました。フィンドレーで行なってきた活動や何を学んだかなどをお話しました。総領事と市長を前に緊張しましたが、非常に貴重で楽しいひとときでした。

【まとめ】

本当にあっという間の10ヶ月でした。多くの経験と学び、そしてかけがえのない友人との出会いに恵まれ、充実した留学生活となりました。この留学を応援し、支えてくださったすべての方に心から感謝申し上げます。日本に帰国する前に、フィンドレー大学で親しくなったオレゴン州出身の友人の家に1週間ほど滞在してから帰国する予定です。最後のアメリカ滞在も大切に過ごしたいと思います。

本報告書についてご質問、お問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。 wakaharak@findlay.edu